

令和7年度 専門学校 広島自動車大学校 学校自己評価

令和8年5月作成

評価点 4:非常に良い 3:良い 2:やや劣る 1:劣る※(令和6年度評価点)

大項目	点検項目	中項目	評価項目	評価平均点	評価の観点・検証の資料例	
1 教育 理念 ・ 目 標	・学園理念 ・教育方針 ・教育目標 ・教育計画	1.学園理念・目的 人材育成像	1 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	3.9 (3.8)	・学園経営方針・長期計画書 ・学園理念 ・学園沿革の概要 ・教育方針 ・学則 ・教育計画 ・学生心得	
			2 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3.8 (3.6)		
			3 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界ニーズに向けて方向づけられているか	3.8 (3.5)		
		2.学校の特色	1 学校における職業教育の特色は何かを周知されているか	3.8 (3.5)		
		3.学校の将来構想	1 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3.2 (3.2)		
	項目		現状	課題と改善方策		
	1-1 学園理念・目的・人材育成像	・本校では、実践主義に基づく「心技一体」の建学の精神のもとに常に社会のニーズにマッチしたプロの技術者の育成をしている。すなわち、「心身の成長と知識技能が一体となって成長すべきである」という理念に基づき教育活動を実施している。 また、教育基本法に従い、工業系技術者の養成のために技術の付与を行い、实际生活に必要な能力を付与するための専門的教育を行う事を目的としている。 ・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などを周知してもらうために、学生・保護者等に配布する学生心得に学園理念や建学の精神を掲載している。 ・技術の進化、顧客の要望の多様化など、時代は常に変化している。そのため先を見据え、自動車の整備技術・知識だけではなく、顧客サービスや、マネジメント能力を持つ総合的な人材育成を目指している。 ・学校HPで公表している。 ・夏休みに実施している保護者懇談会にて、本校の取り組みを説明している。				
	1-2 学校の特色	・本校の特長は、当たり前のことが、当たり前の顔をしてできる人間形成の時期と考え、経験豊富な教員が学生と一緒に勉強(共育)していくことにある。 ・現場経験、指導経験の豊富な教員と現場設備と同じ整備環境で、自動車整備士、その他の資格、就職活動をサポートし社会へ送り出す。 ・28年度より日産自動車(株)の指定校に認定。 ・文部科学省認定の職業実践専門課程の認定校 ・教育訓練給付金制度 認定校 ・高等教育の修学支援新制度 対象校 ・電子制御装置 特定認証取得			・進化する技術及び企業ニーズに柔軟に対応する必要がある。	
	1-3 学校の将来構想	・第三次中期事業計画(5年)で学校の将来構想を定めている。 ・新技術等に対応できる教員の育成。			・従来の自動車技術に加えて環境対応車両が主流となる将来を見据え、教育課程、学習内容、教育設備、教員の質の向上等を充実させていくことが求められる。 ・学校の将来構想については、自動車離れ・更なる少子化に対する対策が打たれていない。 ・姉妹校との人事交流や若い教員の採用の検討	

大項目	点検項目	中項目	評価項目	評価平均点	評価の観点・検証の資料例
2 教育活動・ 教育環境・ 学修成果	校務分掌・組織図 ・学則 ・教育計画 ・時間割 ・シラバス ・出席簿 ・成績原簿 ・学業成績証明書	4 教育課程編成及び実施	1 教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	3.7 (3.8)	・学則 ・教育計画 ・就職先など外部の要望 ・国家試験・資格・検定試験の取得率 ・即戦力・実践力の育成と技術の向上 ・コミュニケーション・待遇力の育成 ・学則 ・学生心得 ・出席簿 ・期末試験 ・成績原簿 ・学業成績証明書 ・国家試験合格率、各種資格取得状況 ・国家試験対策の状況
			2 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3.8 (3.8)	
			3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3.7 (3.8)	
			4 キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	3.7 (3.7)	
			5 関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成や見直し等が行われているか	3.8 (3.7)	
			6 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置付けられているか	3.8 (3.7)	
		5 成績評価	7 授業評価の実施、評価体制はあるか	3.7 (3.7)	
			8 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3.9 (3.8)	
			9 成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4.0 (4.0)	
			10 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置付けはあるか	3.9 (3.8)	
		6 教員育成	11 人材育成目標の達成に向け、授業を行う事ができる要件を備えた教員を確保しているか	2.6 (2.8)	
			12 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	2.5 (2.5)	
			13 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3.4 (3.4)	
			14 職員の能力開発のための研修等が行われているか	3.4 (3.4)	
	・学則 ・教育計画 ・時間割 ・シラバス ・教育計画 (防災計画)	7 教育環境	1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	3.2 (3.2)	・学則 ・教育計画 ・時間割 ・シラバス ・インターンシップ実施報告書 ・教育計画(防災計画) ・就職先など外部の要望(企業アンケート含む) ・国家試験・資格・検定試験の取得率 ・即戦力・実践力の育成と技術の向上 ・コミュニケーション・待遇力の育成 ・国家試験合格率、各種資格取得状況 ・国家試験対策の状況 ・学生台帳(カウンセリング記録を兼ねる) ・卒業生アンケート
			2 学外におけるインターンシップ・合宿研修等について十分な教育体制を整備しているか	3.5 (3.5)	
			3 防災に対する体制は整備されているか	3.6 (3.7)	
	・就職指導の実施記録 ・就職活動報告書 ・就職試験指導計画 ・就職試験報告書 ・企業セミナー実施要領 ・卒業生の就職後追跡調査 ・学生台帳(カウンセリング記録を兼ねる)	8 学修成果	1 就職率の向上が図られているか	4.0 (4.0)	
			2 資格取得率の向上が図られているか	4.0 (4.0)	
			3 退学率の低減が図られているか	3.5 (3.5)	
			4 卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	3.6 (3.5)	
			5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	3.2 (3.3)	

項目	現状・取り組み	課題と改善方策
2-4 教育課程の編成及び実施	・年間教育計画を策定し、各教科の時間割を半期ごとに学生に提示している。 ・国土交通省の定める1級コースでは、実習2700時間以上、学科900時間、2級コースでは、実習1200時間以上、学科600時間を、出席率1級コース90%、2級コース90%でクリアできるよう確保している。 ・職業実践専門課程の授業として2級コース2年にHV車を用いた低圧電気取り扱い、HV特有の整備知識、最新機器の紹介をトヨタカローラ広島株式会社へ委託。 ・職業実践専門課程の授業として2級コース1年の工作でのガス、アーク溶接作業を株式会社ロイヤルに委託。 ・1級コースのインターンシップにおいては総務部とのヒアリング、実施店舗責任者、実習指導者とのヒアリングを行い、次年度に活かしている。 ・2級コースもインターンシップを実施。(希望者のみ) ・モラル、マナー教育の一環としてSNSについての講習をNTTドコモに依頼。 ・毎年各販売会社様による授業を実施。令和7年度はスズキ自販広島、マツダグループ、いすゞ自動車、広島トヨタ、日産自動車、JAF(日本自動車連盟)による授業を実施。	
2-5 成績評価	・年度初めに「学生心得」を学生に配付し基準を開示している。 ・成績原簿にて厳格に評価し教員会議で再審議し最終的に校長が判断している。 ・学生による授業評価アンケートの実施。 ・卒業生アンケートの実施。 ・授業評価アンケート集計後、評価の低い項目について来年度の自己申告目標の中に取り入れる。 ・テスト以外での評価基準、項目を明確にした。	・学生による授業評価アンケートの継続的实施。 ・卒業生アンケートの継続的实施。 ・授業空き教員による見学、評価の実施。 ・学年により教える内容、範囲に差が生じない様、担当する教科についての情報交換をさらに密に行う。
2-6 教員育成	・職業実践専門課程の教員研修として自動車整備振興会が行なう技術研修に積極的に参加。令和7年度はHVバッテリー脱着研修・空気圧充填研修等 ・JAMCA主催のスキルアップ研修に参加。(経験年数3～5年職員) ・毎年教員全員、法令研修を受講している。 ・毎年、整備主任者技術研修を受講している。 ・自動車メーカー及び販売店の実施する技術研修に積極的に参加。(質保証研修会、日産技術研修、マツダ技術セミナー、UDエクスペリエンスセンター研修、全専各連中国地区協議会研修会、JAMCA夏季研修に参加)	・今後も積極的に各教員が内外部を問わず研修に参加すること。 ・空き時間に他の教員の授業を見学し相互チェックを実施する ・案内がある研修に関してはほぼ参加しているが、研修を受講後に他の教員に展開・共有ができているかどうか、一歩進んだ体制作りが必要 ・教員の人員確保の充実を図る ・メカ系ディーラー出身者の教員の確保

2-7 教育環境	・施設、設備は第一種養成基準を満たしているが、適宜教材の更新を行う。 ・校舎は古くなっているが、適宜補修や修理を実施している。 ・授業時においても、プロジェクターやパソコンを使用し学生に分かりやすく説明できる。 ・29年度は企業との連携により新型車・CVTを導入。 ・28年度より2級コースもインターンシップを実施(希望者のみ) ・年一回の消防設備点検により、老朽化した物は新しく取り替え、常に万が一に備えている。 ・防災管理体制及び火災予防組織表を掲示、総合防災マップ及び避難経路を各教室に掲示。 ・校内での事故に対応するために保険に加入している。 ・毎年年度初期に消防署指導による火災消火訓練を実施している。令和7年度も広島県「みんなの減災」一斉地震防災訓練を実施 ・地震が頻繁に発生していることを踏まえ「セコム安否確認サービス」を導入 ・30年度ダイハツ様より灯火装置、CAN通信教材の提供を受ける。 ・令和元年度広島トヨペット(株)よりプリウス1台贈呈 ・コロナ禍でのWeb授業に対応するために、全教室へLANケーブルの設置 ・令和2年度株式会社アンフィニ広島様よりバルancer贈呈 ・令和3年度株式会社アンフィニ広島様よりオシロスコープ・エンジスタンド贈呈 ・令和3年度ダイハツ広島様よりエンジン贈呈 ・電子制御装置 特定認証取得 ・EV車用工具セット(メガーテスタ、ミリオームテスタ、絶縁工具セット)を購入 ・外部診断機5台購入 ・日産自動車よりEV「サクラ」を貸与 ・スズキ自販広島様よりエンジン2機贈呈 ・いすゞ自動車よりエンジンを贈呈 ・広島オートバイ販売様より原付4台寄贈(令和7年度) ・キャニスターチェッカー(チャコールキャニスター点検)を購入	・従来の自動車技術に加えて環境対応車両が主流となる将来を見据え計画的な教材等の購入が必要。 ・必要性・重要性の順番を検討し金銭面も考慮し計画的に導入していく。 ・学生アンケートや保護者アンケートの中から、要望のある事項について改善計画を進めていく。 ・今後も避難訓練実施。 ・WEB授業の内容充実を図る為の教材等の作成
2-8 学修成果	・企業訪問の支援、履歴書の作成支援、模擬面接等の支援を実施。 ・毎年11月に企業セミナーを開催(令和7年度は参加企業48社) ブース48社 リモートなし ・令和7年度卒業生就職率、就職希望者の就職率100%。 ・放課後の居残り勉強会を担任教員の指導のもと、クラス単位で実施しており、資格取得を支援している。 ・夏休み等を利用し苦手教科を克服する為の個別対応の勉強会を実施している。 ・令和7年度受験者合格率 2級ガソリン100%、ディーゼル100% 1級100% ・生活態度の変化等に注意し、学校と保護者が連携し退学の抑止に努めている。 ・就職担当教員が企業訪問時、状況を聴取している。 ・卒業生がメーカー主催のコンクールへの出場や新聞などに取り上げられたことなどの情報の入手を積極的に学生に紹介している。 ・マツダ自動車主催の全国サービス技術大会を全学生に見学させている。 ・企業へのヒアリングを実施	・退学率低減の為担任まかせにならないよう全ての教員が情報を共有し校長への連絡を密にする。 ・卒業生の入社後の技術面やモラル・マナー等の評価を把握し、評価の低い点をカリキュラムに反映する必要がある。 ・就職担当者を中心に、企業へのヒアリングを今後も継続 ・企業アンケートの集計はできているが、改善には至っていないので、アンケート内容を授業及び学生指導に活かしていく。

大項目	点検項目	中項目	評価項目	評価平均点	評価の観点・検証の資料例
	・就職指導の実施記録 ・就職試験指導計画 ・企業セミナー実施要領 ・学生台帳(カウンセリング記録を兼ねる) ・奨学金制度 ・学則(健康診断) ・保護者懇談会の実施記録 ・出席状況の送付 ・学生の生活状況(台帳) ①居住状況 ②通学方法の把握 ③アルバイト状況の把握 ・卒業生の就職後追跡調査	9 進路(就職)指導	1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4.0 (4.0)	・学則 ・就職率などの就職状況実態調査 ・就職指導の実施記録 ・就職試験受験報告書 ・就職先の卒業生の評価 ・企業説明会実施報告 ・学生心得 ・学生部の取り組み ・保護者面談・連絡記録 ・学生台帳 ・卒業生アンケート
		10 生活指導・学生支援	2 学生相談に関する体制は整備されているか	3.9 (3.9)	
			3 学生の生活環境への支援は行われているか	3.7 (3.8)	
			4 課外活動に対する支援体制は整備されているか	3.3 (3.3)	
		11 経済的支援	5 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3.7 (3.7)	
		12 健康管理	6 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	2.7 (2.8)	
		13 保護者との連携	7 保護者との連携は適切であるか	3.6 (3.6)	
		14 卒業生支援	8 卒業生への支援体制はあるか	3.6 (3.7)	
		15 高校との連携	9 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3.5 (3.5)	
			10 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3.2 (3.3)	
項目		現状・取り組み		課題と改善方策	
3-9 進路(就職)指導		・クラス担任制をとっており、1級コース進学、自動車車体整備科(姉妹校工学院大学校)進学、就職活動など、クラス担任と就職担当教員が連携しキメ細かい支援を行っている。 ・企業訪問の支援、履歴書の作成支援、模擬面接等の支援を実施。 ・毎年11月に企業セミナーを開催。(令和7年度年参加企業48社) ・令和7年度卒業生就職希望者の就職率100%。		・特になし。	
3-10 生活指導・学生支援		・クラス担任制をとっており、いつでも学生の相談に乗り、また、学生の変化を感じたら面談を行い学生台帳へ記入し記録する等のキメ細かい支援を行っている。 ・同好会があり放課後等活動している。 ・カート同好会への支援は校内では出来る限りのことは実施できている。職員の配置、部品の調達などスムーズに行えるようになってきた。同好会部員への負担も軽減できている。 ・毎年希望者を対象にモーターショーなどのイベントを実施。(交通費学校負担) ・秋にスポーツ大会を実施(2級コース)		・学生が遠慮なく相談できているのか調査するため授業アンケートの項目としている。	

3 学生支援	3-11 経済的支援	・日本学生支援機構奨学金及び各種教育ローンを紹介している。 ・説明会の開催。事務手続きの取りまとめを行っている。 ・企業奨学金の紹介をしている。 ・親子兄弟姉妹入学金減免特典制度などがある。 ・JR広島駅から学校までの無料送迎バスの運行をおこなっている。 ・遠方からの学生支援のため、アパートよりも格安になるよう学生寮の寮費の値下げを実施。 ・29年度より一人暮らし(遠方の学生)への住居費補助制度を開始。 ・教育訓練給付金認定校 ・高等教育修学支援対象校	・企業奨学金を充実させるとともに学生にアピールしていくためにも、企業奨学制度を採用する企業の開拓が必要となる。(現在40企業が採用) ・令和6年度より学生寮(本町ベース)を新築
	3-12 健康管理	・全員、毎年春に健康診断を実施している。 ・近隣の病院の連絡先一覧表を作成し教室に掲示している。 ・急病の学生対応として、職員が車で病院に連れて行き、状態を把握し保護者へ連絡を実施。 ・朝夕のHRを実施することにより学生の体調を確認している。 ・足等を怪我した学生が不自由しないように洋式トイレに増改築。 ・インスタント食品に偏るのではなく、バランスの取れた食生活の心掛けを促す掲示物を設置し、声かけ・指導を行っている。 ・感染防止対策として、実習前や実習中の手消毒を実施。 ・令和6年度から歯科検診を開始している	・近年は、疾病の種類が多岐にわたっているため(アレルギー含む)学校としてできることは限られているので、保証人に緊急の連絡を行う ・生活スタイルを確立するための助言(規則正しい生活の推奨→睡眠時間の確保等)
	3-13 保護者との連携	・毎月出席率の報告を郵送している。 ・1年次の夏休みに保護者懇談会を実施し、学校の方針、取り組みについて説明、クラス担任と学校生活、学業、就職活動等について保護者個人面談を行っている。 ・出席率が悪い学生には、保護者への連絡、面談を随時行っている。	・特になし。
	3-14 卒業生支援	・卒業生への学校側からのフォローはほとんどできていないが、再就職の斡旋やその他の相談には各担任教員・就職担当教員が個別に対応している。 ・1級コースでは卒業後の口述試験の対策授業を実施。 ・ホームページに卒業生相談窓口を開設した。 ・カート同好会OBの耐久レース参加を現役同好会員と職員で手伝いをした。 ・2級全免申請や資格免状再発行等の手続きを学校で実施している。 ・再就職の支援を行っている。	・学生が卒業したら学校からの支援は無いものと思っている為、卒業後も各種の相談・支援することを学生にアピールする必要がある。 ・卒業生アンケートの中で要望事項を聞く。
	3-15 高校との連携	・高校からの要望による学校見学や出張授業、ガイダンスを積極的に行っている。 ・当校入学後の学生生活の状況、就職内定状況などきめ細かく連絡している。 ・社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備や高校等との連携は、機会は少ないが依頼があれば行っている。 ・依頼があれば高校に出向き、出張授業を行っている。令和7年度実績(県立総合技術高校、おおぞら高等学院、星槎国際学院高校)	・広報担当者による高校側からの要望聴取をより積極的に行う。 ・通常授業との兼ね合いを見ながら、出張授業にも積極的に参加していく。

大項目	点検項目	中項目	評価項目	評価平均点	評価の観点・検証の資料例	
4 学 校 運 営	・校務分掌・組織図 ・各役職の職務内容 ・各委員会組織 ・就業規則 ・職能評価資料 ・人事考課資料 ・教員研修予定表 ・教員研修実績表 ・研修報告書	16 管理・運営 教員組織	1 目的に沿った運営方針が策定されているか	3.6 (3.7)	・校務分掌・組織図 ・各役職の職務内容 ・各委員会組織 ・教職員の経営参加意識 ・就業規則 ・学校組織一覧 ・出勤簿 ・教員研修予定表 ・教員研修実績表 ・研修報告書 ・学校HP	
			2 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3.7 (3.7)		
			3 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか有効に機能しているか	3.2 (3.4)		
			4 教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3.3 (3.5)		
		17 人事・給与制度	5 人事、給与に関する規程等は整備されているか	2.4 (2.6)		
		18 コンプライアンス	6 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3.3 (3.4)		
		19 情報公開	7 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3.8 (3.7)		
		20 業務改善	8 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3.2 (3.1)		
	項目		現状・取り組み		課題と改善方策	
	4-16 管理、運営、教員組織		・骨子に基づきその方針が、年度初めの理事長講話、毎月の校長会等で教職員に対し方針説明を行っている。 ・物品購入に際しては、稟議書の提出。資産管理等のシステムがある。 ・業務分掌の一覧を作成し役割分担している。 ・H29年度より職員の自己評価を行う為の自己申告書の作成 ・第三次中期事業計画の作成		・役割分担の公平性を保つ	
	4-17 人事、給与制度		・学園規則による。		・就業規則他	
	4-18 コンプライアンス		・学園によるコンプライアンス、ハラスメント研修を実施している。 ・地域住民等からの苦情も速やかに対応している。		・特になし。	
	4-19 情報公開		・常時タイムリーに学校HPに公開しており、誰でも閲覧できる。		・特になし。	
	4-20 業務改善		・在学生の管理は一元化されている。 ・データは共有されているが、個々の書類作成方法があり似たようなデータや書類が多数パソコンに存在していたので不必要なフォルダー等は削除し整理した。 ・各教室においてPCでインターネット等接続できるよう一部Wi-Fiを導入。 ・全員5日以上の有給休暇を取得 ・コロナ禍での職員在宅勤務への対応 ・全教室へLANケーブル設置 ・在宅でのWEB授業対応		・システムの効率化は本校だけの問題ではなく姉妹校を含む学園全体での継続的問題であり、使用目的、運用状況等を判断し計画的な改善が必要。	

大項目	点検項目	中項目	評価項目	評価平均点	評価の観点・検証の資料例
5 学 生 の 受 け 入 れ 募 集	・教務規定 ・パンフレット ・募集要項 ・定員数、入学者数、定員充足率	21 入学者選抜等	1 学生募集活動は、適正に行われているか	3.7 (3.8)	・学則 ・パンフレット ・募集要項 ・定員数、入学者数、定員充足率 ・在学者数 ・学校HP ・オープンキャンパスの計画的な実施
			2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3.7 (3.8)	
			3 学納金は妥当なものとなっているか	3.8 (3.9)	
	項目		現状・取り組み		課題と改善方策
	5-21 入学者選抜等	・高等学校等に対する情報提供はパンフレット・募集要項を作成し、適切で適正な学生募集活動を行っている。 ・広報担当者が随時高校訪問を実施している。 ・オープンキャンパスを年間19回(令和7年度)開催しており、来校者には、学校説明、入試説明、体験実習、校内見学を行っており、パンフレット、募集要項、年間行事予定を配付している。なお、体験実習では、在校生に実習を指導役として手伝ってもらい、在校生の、生の声を届けている。 ・高等学校への出張授業、実習体験型ガイダンスを実施しており、整備士の仕事や資格制度等の専門分野の周知・広報活動を行っている。 ・HPやLINEを使用し色々な情報を発信している。 ・Webでの個別相談も可能としている ・国土交通省主催の高校生対象インターンシップ事業にツナギ貸出(令和5年度) ・グランツーリスモ7 eスポーツ大会を姉妹校と共に主催として実施(令和5年度、令和6年度)		・充足率向上にむけ、今まで以上に学校及び自動車整備の魅力を伝える努力が必要。 ・オープンキャンパスの内容等の充実。 ・少子化への対策が必要。 ・自動車に興味を示す若者が減少しているなか、有名企業への安定就職などの観点で興味を持たせる努力が必要。さらに小学生、中学生の時より自動車に興味を持ってもらうため、職業体験の受け入れなどの検討が必要。	

大項目	点検項目	中項目	評価項目	評価平均点	評価の観点・検証の資料例
	・事業報告書 ・資金収支計算書 ・消費収支計算書 ・貸借対照表 ・財産目録 ・監査報告書	22 財務	1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3.1 (3.0)	・事業報告書 ・資金収支計算書 ・消費収支計算書 ・貸借対照表 ・財産目録 ・監査報告書 ・学校HP
			2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3.1 (3.0)	
			3 財務について会計監査が適正に行われているか	3.8 (3.8)	
			4 財務情報公開の体制整備はできているか	3.8 (3.8)	
	・学園機構、学校組織 ・学園広報組織 ・各種パンフレット	23 法令順守	1 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がされているか	3.9 (4.0)	・学園機構・学校組織一覧 ・各種広報活動記録 ・パンフレット ・データ管理状況 ・危機管理の状況 ・学校HP
			2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.9 (4.0)	
			3 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3.7 (3.9)	
			4 自己評価結果を公表しているか	4.0 (4.0)	
	・教務規定	24 社会貢献・地域貢献	1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.1 (3.0)	・教務規定
			2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3.0 (3.1)	
			3 地域に対する公開講座・教育訓練の受託を積極的に実施しているか	2.5 (2.4)	

6 財務・法令遵守・社会貢献	項目	現状・取り組み	課題と改善方策
		・改正私立学校教育法施行に則って、財産目録、財務諸表および事業報告書を毎年5月末までに作成し、理事会の議決を経て学園HPに掲載するとともに、利害関係者からの閲覧請求があった場合は、閲覧可能な体制を準備している。 ・予算の決定は、前年度の総括と当該年度の事業計画により編成し、理事会の決議により決定している。 ・公認会計士、税理士による監査を月1回程度受けながら、学園の経理規定に基づき適正に学校会計処理を行っている。また、学園監事2名による会計監査を受け、理事会、評議委員会において監査報告を行っている。 ・HPにて財務情報は公開している。	
	6-23 法令遵守	・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営を行っている。 ・学園によるコンプライアンス、ハラスメント研修を実施している。 ・不正改造車の排除について車両点検、チラシの配布、ホームルームでの啓発指導を行っている。 ・古沢学園 個人情報の取り扱い規定に従い、適切に取り扱っている。 ・「個人データ漏えい保険」へ加入し、教員のデータ管理については特に注意喚起を行っている。 ・自己評価、学校評価を実施しHPにて公開している。	・個人情報に関するものは施錠のできる引き出しに等に収納すること。 ・自己評価、学校評価の公開準備ができ次第、速やかに公開すること。
	6-24 社会貢献・地域貢献	・教材を持ち込んだの高等学校出張授業、実習体験型ガイダンスを実施している。 ・社会貢献の一環として、毎年春に学校を挙げて献血に協力している。 ・春休み、夏休み、冬休み前の大掃除時に町内清掃、溝掃除を実施している。 ・交通安全の街頭キャンペーンに1級コースの学生参加。 ・こども110番の受け入れ先になっている。 ・依頼があれば高校の教員に対するエンジンの分解整備実習等を行っている。 ・交通安全のチラシ配り等の活動予定があれば、協力する旨を警察の方に伝えており、令和元年度は夏の交通安全キャンペーンに参加。 ・日本赤十字社より金色有功賞を受賞 ・府中町との災害時の協力に関するボランティア活動の協力を締結 ・トラック協会の依頼により、カート同好会がトラック祭りに参加(令和6年度) ・ホビー同好会によるボランティア活動(令和7年度)	・地域の支えがあって成り立っている事を理解し積極的に実施する必要がある。 ・土曜学習応援団への取り組み。 ・公民館に働きかけて、何か協力できるような講座などがあれば積極的に行う趣旨を申し入れる。 ・献血の継続実施。 ・地域の清掃活動の実施を検討する。 ・地域に対する講座・教育訓練は今まで依頼がないので実施していないが依頼があれば積極的に行っていく予定。 ・地域が行っているボランティア活動を知ることから始めてみる